

書籍紹介



『判例に学ぶ特許実務マニュアル』
第3版 山内康伸 著
(株)工業調査会刊
A5判 660頁 9,500円(外税)
(日本弁理士協同組合でも取扱い中)

本書は1990年の初版が刊行され、その後、1996年に増補改訂したものに、平成10年、11年の法改正および新たに出た判決例を盛り込んだものである。とくに改正民事訴訟法に基づく手続、クレームドラフティングの要領、均等論についての最高裁判決とその後の動向などが新しく加えられており、一層充実した内容となった。

本書は、明細書の作成、拒絶理由通知に対する応答、特許権の行使、他社の権利対策など、特許にまつわる実務を広い観点から解説し、論じたものである。そして題名から分かるように、権利の解釈が最終的に定める判決、とくに侵害訴訟事件の判決を基礎とし、その深い研究分析に依って有用な実務指針を導いている。世に明細書作成方法や意見書作成方法などのマニュアル本は多いが、本書のように判決に基づいて深い基礎から応用実務まで広く論じたものはないと思われる。

もちろん、弁理士たる者は、長期にわたる経験、学識に基づいて、自分なりの明細書の書き方、拒絶理由に対する応答の方法を確立しているはずである。しかし時には本書のような本を紐解き、あるいは同感を得、あるいは異なる観点到ら発せられて、自分なりの方法を再度点検することも有益である。本書を推すゆえんである。なお、工業所有権の初学者に基本的な明細書作成方法を教える立場のベテラン弁理士にとって、その教える手順の参考にもなり、場合によりテキスト代わりにも使用できるのではないか。

(会員 秋山 重夫)